

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 9 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490201625		
法人名	株式会社 ダイキ		
事業所名	グループホーム古の市		
所在地	広島市安佐南区古市三丁目5番3号 (電話) 082-877-1413		
自己評価作成日	令和6年5月15日	評価結果市町受理日	令和6年12月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490201625-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年9月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

・入所者に限らず、誰にとっても落ち着ける環境をつくり、こころのバリアフリー（一人ひとりのが、身体の不自由な方や高齢者など様々な立場の人のことを理解し、思いやりの心をもって接すること）を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は令和5年1月1日に法人名が変更になったが理念は引き続き継続し、心のバリアフリーを理解し、顔馴染みの職員と利用者が温かな雰囲気の中で当たり前の生活が毎日送れるよう実践している。外国籍の職員に対して言葉の違いや生活習慣が異なる中で母国語で分かりやすい説明や理解しやすいように図形や漫画絵の資料を作成し施設長、各階の管理者、職員、利用者と共に支え合い働きやすい環境づくりに取り組んでいる。食事や食後の余暇を過ごす食堂兼居間では、テレビを見たり大きな紙に大きな字で書いた歌詞を見ながら、歌好きの利用者に合わせて唄ったり、手拍子でリズムを取るなど、利用者と職員が一緒に楽しめるよう工夫をしながら支援をしている。

自己評価	外部評価	項 目（ 3階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の具体的な実践を職員で共有する場がない。	理念を唱和する事はないが、業務に携わる中で心のバリアフリーを理解し、思いやりの心も持って接する支援を目指している。外国籍の職員に対して母国語や分かりやすく図形式で表示した資料を手引きとして作成し、全職員が統一して支援の実践に取り組んでいる。職員の資質の向上に向けた個人目標の提示を検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染症により、外部との交流がほとんどない。	地域の町内会に加入しているが、コロナ禍で交流はできていない。今後は地域の情報収集やボランティアの受け入れ、研修などに参加し、地域の一員としての交流が行えるよう検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人々に向けての取り組みが具体的にできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染症により開催が紙面開催となった期間があり、積極的な交流は難しい。令和6年4月より対面での開催を始めたが、関係者の徴集が課題となっている。	運営推進会議は書面での開催を行い、事業所の利用状況や交流・行事等、実施状況を地域包括支援センターにはFAX、家族には電話で意見照会をしている。質疑・意見は運営推進会議資料で回答をしている。多数の参加が得られるよう提案や案内を行い、不参加の家族に情報が共有できるよう検討する考えである。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	法律的な問題や疑問点等については市町担当者に連絡をして確認をしている。今後については運営推進会議への参加もお願いしていきたいと考えている。	運営推進会議の結果を書面にて報告している。不明な点や問題など相談を行い、アドバイスや助言を得ている。市主催のオンライン研修や市生活課担当職員の来訪、地域包括支援センターとは空き状況報告など協力関係の構築に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関して全職員への周知徹底は十分ではない。玄関の施錠に関しては夜間においては防犯上、施錠している。	内部研修や3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会を開催している。月1回のリーダー会議で話し合いや「虐待、拘束、確認テスト」用紙を活用し、自己チェックやスピーチロックなど気づきを職員間で注意や指導を行い、言葉かけにも工夫をするなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内では虐待防止委員会の開催時に研修資料を小分けにして配布し、職員間で状況や状態を話し合う程度である。事業所内での虐待が見過ごされることがないよう虐待の防止を徹底していく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	一部の職員は理解しているが全員はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前にできるだけ理解納得を得られるよう努めている。定期的に行っているわけではないので、利用者や家族も忘れられている。該当事項に抵触する場合、又はしそうな場合にはその都度説明するように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者や職員に直接表せる機会を設けたり運営推進会議にて報告する機会を持っている。	面会時や電話などで意見や要望を聴取している。家族からは水分摂取などの意見があり、飲みやすい飲料で水分補給するなど、利用者からは日常の会話の中から食べたい物、お好み焼きや麺類などがあり、要望が叶えられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目 (3 階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	施設の責任者として、職員の意見や提案等を聞き反映に努めている。職員が思ったことや感じたことを素直に言える環境づくりを心掛けている。	毎月のミーティングと研修を同時開催し、会議の中での意見や少人数での面談で意見や提案など聴取している。勤務シフトや資格取得の希望、外国籍の職員から「食材に寒天を使ってみてはどうか」との意見があり、反映させた事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員勤務状況を把握し、職員の過程状況等に合わせてシフトを配慮したり、各自がやりがいを持ち働きやすい環境づくりを目指しているが、人員配置等の問題があり十分できているとは言えない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の力量に合わせた法人内外の研修やトレーニングの環境整備を整えていきたいが、シフトの関係上研修に参加することが難しく、職員の中には向上心が欠如して参加を拒む者がいるため現状は困難である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現状同業者との交流はできていない。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの初期利用時には、職員全員が受容、傾聴、共感を心掛け情報収集を行いご本人との関係づくりに努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (3 階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用者の状況を確認して、家族等の困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族やケアマネジャー、サービスを提供していた事業所の担当者から情報収集を行い、必要なケアを検討している。認知症グループホームにおいては他の介護サービス利用は制限があるが、医療面に関しては主治医と連携して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	暮らしを共にする者同士の関係づくりに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月ご利用者の近況報告を手紙にて行っている。場合によっては電話やラインにて連絡を取り、共に本人を支えていく関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族や関係者が希望する場合に面会を受け付けているが、ここ数年にわたった新型コロナウイルス感染症により積極的な関係継続の支援はできていない。	職員と一緒に暑中見舞いや年賀状を書くなど、なじみの人との継続やスーパーに外出し飲物を購入し近くの公園でゆっくりと時間を過ごしたり、訪問理美容の方との馴染みの関係が生まれるなど、関係の継続ができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者の個性や性格を加味して利用者同士の関係の支援に努めるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関りの中でご利用者の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	生活歴や日頃の会話やコミュニケーションの中で本人の意向の把握をしている。散歩や歌好きの利用者の思いを介護計画に反映し日頃のケアの中に取り入れている。表出の難しい利用者は筆談、表情や仕草、いつもは声が出ない利用者の大声で体調の変化に気づくなど日頃の様子把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	フェイスシートやサマリーを参考にしながら、日頃の会話の中から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者の現状については客観的情報や主観的情報をもとに把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (3 階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員とはカンファレンスを通じてご利用者の課題やケアのあり方について共有ができていないが、家族については具体的な意見や要望が出てきていないのが現状である。家族や必要な関係者の意見やアイデアがない中で、現状に即した介護計画とは言い難い。	日頃の様子は申し送りノートで共有している。毎月のミーティングで状況変化について利用者の支援のあり方について話し合いを行っている。状態に変化がみられれば医師や看護師、関係者の意見や提案を聴取し介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	月間ミーティングやカンファレンスを通じて、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医療面においては医療連携体制をとり、介護と医療との連携をより円滑にできるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源との協働はできていないのが現状である。今後は地域資源を把握して働きかけを行っていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	原則、居宅療養管理指導の契約先である協力医療機関の主治医の指示により受診を行っている。本人や家族等の希望があれば受診支援を行う。	契約時、希望のかかりつけ医を聞いている。協力医療機関と居宅療養管理指導の契約を行い、内科、精神科、循環器、歯科、皮膚科の診療支援をしている。他科は通院介助を行っている、医師の指示により看護師の来訪やオンコールで主治医との24時間連携対応を整えている。	

自己評価	外部評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員互いに情報を共有して、異変があれば看護師と連携を図り、随時適切な医療が受けられるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携を図り、スムーズな対応ができるように努めている。また、入院先の病院にも定期的に訪問して、情報交換にも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、家族等の希望に沿えるように協力医療機関との連携をとりながら、支援に取り組んでいる。看取りに対しての同意はいただいているが、職員の看取りに対する知識不足と姿勢に問題があり不十分である。	契約時「重度化した場合における対応に係る指針」について事業所でできる範囲の説明を本人・家族に説明している。重度化した場合は医師など関係者と話し合い、家族に説明を行い、最終的な希望の確認をしている。家族の意向で医療機関に入院となり看取り支援の経緯はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の対応については、普通救命講習やAED取扱い講習等により周知を図っているが、全職員に実践力が身につけているとは言い難い。今後は利用者の急変や事故発生時の備えを強化していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練、避難場所、消火器の使用方法是定期的に訓練を行っているが地域との協力体制は未構築である。	年2回昼夜想定して避難訓練をしている。火元を特定しての避難訓練では避難警報通報や避難場所への避難誘導、地区は浸水地域でもあり、災害時に備えて垂直移動訓練をしている。災害時に備蓄（水、インスタント食品、懐中電灯など）を備えているが備蓄品の見直しの検討をしている。	

自己評価	外部評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように注意して対応し、人格の尊重の大切さを指導しているが、配慮が足りない対応がある。	「接遇について」研修をしている。外国籍の職員には母国語で分かりやすく表示し、言葉かけの指導をしている。気になる点は管理者と1対1で注意指導を行い、気になる点を職員同士でも話をするなど対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者の重度化に伴い、ご利用者自身の希望の表出や自己決定ができる働きかけが難しくなっており、支援ができていないのが現状である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の決まりや都合を優先して、画一的な支援となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご利用者の重度化が進行しており、訪問理美容が主体となっているが、ご本人が希望する場合は個別に対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	現在、高齢者介護施設向けサービスの契約により調理済み食材を利用して提供している。食後の環境整備等に関しては、心身の状況を鑑みてご利用者と一緒に行っている。	業者から調理済みの献立が配達され厨房にて温め盛り付けをしている。お米は契約農家から購入し炊飯している。誕生日にはケーキ、おやつには手作りおやつ（ヨーグルトなど）を出す事もある。利用者は食器洗いなど出来る事を、自分から進んで手伝いをする利用者もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	日頃から職員間で情報共有し、支援に努 めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後はできていない。誤嚥性肺炎のリ スク防止の観点から、できるだけ口腔ケ アを実施するよう努力していく。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	残存能力を大切に支援を心掛けている。 便意や尿意のある方はその都度誘導して いるが、その他の利用者には定時誘導で 実施している。	トイレ誘導は定期誘導をしているが、利 用者によっては誘導の回数を増やすなど 行い、介助の際は難しい所だけを介助す るように心掛けている。便秘予防にヨー グルトを食してもらう事もある。夜間セ ンサーや夜間帯にポータブルトイレ設置 の利用者が数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	当グルーホームには便秘のご利用者が多 くご利用者ごとに便秘薬の服用方法を主 治医と相談して決めている。水分摂取や 軽度な運動を促すが拒否もあり対応に苦 慮するときもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	職員の配置上ご利用者一人ひとりの希望 やタイミングに合わせた入浴の支援はで きていない。	週2回を基本にしている。浴室内は浴槽 はなくシャワー浴で清潔感を保ってい る。入浴が難しい利用者は声かけに工夫 をしたり、居室内での着替えや洗髪など 行う取り組みをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	職員による画一的な支援が主と なり、支援ができていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	ユニットで管理しお薬が変更にな った時はお薬手帳で確認している。 症状も変化があったときは、主 治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	職員の人員配置上の問題があり、 楽しみごとの支援はできていな い。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	職員の人員配置上の問題があり日 常的な外出支援はできていな い。	テラスに出での外気浴や散歩、地 区の交流センターに出かけたり、 スーパーに買物に出かけ近隣の 公園で小休憩を取るなど、事業 所が出来る事で過ごしていただ く支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	お金の所持や使うことの支援は できていない。		

自己評価	外部評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	特別な支援はしていない。携帯電話を持たれている方が1名おられるが、自由に使っていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	人間関係や動線を考慮してレイアウトを考え居心地の良い共用空間づくりを心掛けているが、ハード面において現実には難しく苦慮している。	家庭的な雰囲気です自宅のように台所と食堂が一体となった共用空間で利用者同士語らいながら過ごしている。換気や温度管理を行い、日付カレンダー、塗り絵、写真を展示している。昼食後の余暇の時間はテレビを見たり、歌を唄うなどで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者が孤立されないように配慮をしている。共有空間が狭く、ご利用者一人ひとりに満足した空間となっているとは言い難い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅等で使用されていた馴染みなものを持ってきてもらい、居心地よく過ごせる空間づくりを心掛けている。	自宅で使い慣れた物、大切にしている物などを持参している。テレビ、ギター、仏壇、文庫本など自宅で慣れ親しんだ物に囲まれ居心地よく過ごせるよう思い思い工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	設備上の問題もあり十分ではない。安全な環境ではない箇所もある。		

V アウトカム項目(3階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目（ 4階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を念頭に実践するように努めているが、十分ではなく、職員主体になっていることがある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の一員として事業所自体が日常的に交流ができていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人々に向けての取り組みが具体的にできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染症により開催が紙面開催となった期間があり、積極的な交流は難しい。令和6年4月より対面での開催を始めたが、関係者の徴集が課題となっている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	法律的な問題や疑問点等については市町担当者に連絡をして確認をしている。今後については運営推進会議への参加もお願いしていきたいと考えている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関して全職員への周知徹底は十分ではない。どこまでが身体拘束に該当するか理解させるために、法人内研修や3カ月に1回開催している身体拘束適正化委員会にて、少しずつでも理解させるように努力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内では虐待防止委員会の開催時に研修資料を小分けにして配布し、職員間で状況や状態を話し合う程度である。事業所内での虐待が見過ごされることがないよう虐待の防止を徹底していく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	一部の職員は理解しているが全員はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前にできるだけ理解納得を得られるよう努めている。定期的に行っているわけではないので、利用者や家族も忘れられている。該当事項に抵触する場合、又はしそうな場合にはその都度説明するように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者や職員に直接表せる機会を設けたり運営推進会議にて報告する機会を持っている。		

自己評価	外部評価	項 目（ 4階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	施設の責任者として、職員の意見や提案等を聞き反映に努めている。職員が思ったことや感じたことを素直に言える環境づくりを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員勤務状況を把握し、職員の過程状況等に合わせてシフトを配慮したり、各自がやりがいを持ち働きやすい環境づくりを目指しているが、人員配置等の問題があり十分できているとは言えない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の力量に合わせた法人内外の研修やトレーニングの環境整備を整えていきたいが、シフトの関係上研修に参加することが難しく、職員の中には向上心が欠如して参加を拒む者がいるため現状は困難である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の同業者と交流する機会を積極的に設けていきたいと考えており、令和5年度においては近隣のグループホームへ職員4名で訪問し交流を深めた。今年度も同業者との交流を行っていく予定である。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用前に施設見学をしていただいたり、先様へ訪問し信頼関係の構築に努めている。ご本人様の要望等には可能な限り対応するよう心掛けている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用者の状況を確認して、家族等の困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族やケアマネジャー、サービスを提供していた事業所の担当者から情報収集を行い、必要なケアを検討している。認知症グループホームにおいては他の介護サービス利用は制限があるが、医療面に関しては主治医と連携して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者を家族の一員として接するようにしている。身体状況を加味しながら役割の提供や共にレクリエーションを行い充実した時間を感じてもらえるよう努力をしているが十分とはいえない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月ご利用者の近況報告を手紙にて行っている。場合によっては電話やラインにて連絡を取り、共に本人を支えていく関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族や関係者が希望する場合に面会を受け付けているが、ここ数年にわたって新型コロナウイルス感染症により積極的な関係継続の支援はできていない。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者の個性や性格を加味して利用者同士の関係の支援に努めているが、十分対応できているとは言い難い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関りの中でご利用者の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者や家族、利用していたサービス事業所の担当者より情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者の現状については客観的情報や主観的情報をもとに把握に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員とはカンファレンスを通じてご利用者の課題やケアのあり方について共有ができていますが、家族については具体的な意見や要望が出てきていないのが現状である。家族や必要な関係者の意見やアイデアがない中で、現状に即した介護計画とは言い難い。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の状況を個人記録に記入し、医師や薬局からの指示、注意点などはユニットごとにノートに記載をしている。職員全員が情報共有するようにしているが、一部の職員についてはノートを確認しないなどの不適切な状況が見られる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医療面においては医療連携体制をとり、介護と医療との連携をより円滑にできるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源との協働はできていないのが現状である。今後は地域資源を把握して働きかけを行っていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	原則、居宅療養管理指導の契約先である協力医療機関の主治医の指示により受診を行っている。本院や家族等の希望があれば受診支援を行う。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 4階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員互いに情報を共有して、異変があれば看護師と連携を図り、随時適切な医療が受けられるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携を図り、スムーズな対応ができるように努めている。また、入院先の病院にも定期的に訪問して、情報交換にも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、家族等の希望に沿えるように協力医療機関との連携をとりながら、支援に取り組んでいる。看取りに対しての同意はいただいているが、急変の際は病院へ搬送、入院となり医療系施設への転院となる場合が多数を占めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の対応については、普通救命講習やAED取扱い講習等により周知を図っているが、全職員に実践力が身につけているとは言い難い。今後は利用者の急変や事故発生時の備えを強化していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練、避難場所、消火器の使用方法是定期的に訓練を行っているが地域との協力体制は未構築である。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 4階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように注意して対応し、人格の尊重を心掛けているが、配慮が足りない事もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者が希望の表出や自己決定できるように、ゆっくりと一人ひとりのペースに合わせ支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にして、本人の希望を確認、自己決定を促し支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご利用者の重度化が進行しており、訪問理美容が主体となっているが、ご本人が希望する場合は個別に対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	現在、高齢者介護施設向けサービスの契約により調理済み食材を利用して提供している。食後の環境整備等に関しては、心身の状況を鑑みご利用者と一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目 (4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	一人ひとりの食事量や水分量を把握して 足りてない方にはご本人の摂取しやすい 形態などに変更するなどしながら支援し ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	ご本人の生活リズムに合わせ、全員が毎 食後ではないが状態に応じて行っている が、職員全員ができていない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	重度の高齢者が多く全員にはできていな いが、一人ひとりの排泄パターンや習 慣に合わせてトイレ誘導や排泄介助を 行っている。不適切なパットの使用をし ている職員がいるが、その都度指導はし ている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	当グルーホームには便秘のご利用者が多 くご利用者ごとに便秘薬の服用方法を主 治医と相談して決めている。水分摂取や 軽度な運動を促すが拒否もあり対応に苦 慮するときもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	職員の配置上ご利用者一人ひとりの希望 やタイミングに合わせた入浴の支援はで きていない。		

自己評価	外部評価	項 目 (4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容を理解し、服薬確認、症状に変化がないか注意を払っている。誤薬防止のため、内服前には必ず薬に書いてある名前と本人を確認するようにしているが、誤薬はある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	料理や編み物、歌、絵画作成など、一人ひとりの生活歴や趣味、好みに合わせた役割や楽しみごとの提供をして支援するよう心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物や行事など、外出支援はコロナ禍でできていなかったが今年の3月より近隣のスーパーや公園に外出するようにしている。現状はご家族や地域の人との協力体制は不十分である。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭を紛失したり、しまった場所がわからなくなるなどご本人が不穏になられるため、お金の所持は行っていない。ご利用者とスーパーやコンビニに出向き私物を立替購入することは定期的に行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望者がいるのであれば手紙や電話などの支援については、労力を厭わない。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者が不快や混乱を招くことがないよう配慮をして、できるだけ居心地よく過ごしてもらえるように家庭的な空間づくりを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間の中で、趣味に没頭されたり、気の合った利用者同士でゲームをしたり会話をして楽しむ居場所づくりを心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅等で使用されていた馴染みなものを持ってきてもらい、居心地よく過ごせる空間づくりを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者の動きを制限せず、できることを活かしていけるよう、心身の状態を観察して対応するよう心掛けている。安全に生活してもらえるよう工夫をしているが、設備上の問題もあり十分ではない。		

V アウトカム項目(4階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム古の市

作成日 令和6年11月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所としての理念はあるが、グループホーム古の市単体の理念がない。	職員一人ひとりがグループホーム古の市の理念に基づいてケアを実践することができる。	令和6年11月中に理念を策定し、全職員に普及する。外国人の職員には、母国語に翻訳して普及する。	令和6年11月～令和6年3月
2	13	社会人としての最低限の常識、マナー、礼節を持ち合わせていない職員が存在する。	日本における慣習、社会常識を身につけることができる。	事例を列举して社会人としての最低限の常識を身につける教育を行う。	令和6年11月～令和6年3月
3	36	利用者への言葉遣いに配慮にかける所がある。	利用者への適切な声かけができる。	利用者の立場にたって自分がこう言われたらどう思うのかを常に考えて職務を遂行する。	令和6年11月～令和6年3月
4	26	職員が介護計画に沿った支援ができていない。(外国人職員を含めて)	チームで同じ目標に基づいて支援することができる。	まずはご利用者個人の月別目標を1つチームで設定してチームで同一のケアを行う。	令和6年11月～令和6年3月
5	23	ご利用者の身体機能の状態に応じた歩行訓練や関節可動域訓練が十分にできていない。	ご利用者の体調に合わせて1日に1回は歩行訓練、関節可動域訓練を実施する。	ご利用者への訓練内容を職員で共有し、同一のケアを日勤職員が実施する。	令和6年11月～令和6年3月
6	49	外出行事、散歩など四季を感じられる行事が不十分である。	ご利用者が気分転換できるようになる。	年間の行事予定を作成して、予め実施予定日を決め、外出活動を実施する。	令和6年11月～令和6年3月
7	2	地域との交流ができていない。	地域との連携ができる。	地域の行事予定を把握して、年間スケジュールを立てる。町内会長や民生委員、ボランティア団体との交流を行う。	令和6年11月～令和6年3月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。